

聖書：マタイ 3：13～17

説教題：イエスの洗礼

日時：2016年5月15日（朝拝）

今日の箇所はイエス様がバプテスマのヨハネから洗礼を受けられた時の記事です。この受洗をもってイエス様の公生涯はスタートします。この記事を読む時、私たちの頭に思い浮かぶ問いは、なぜイエス様は洗礼を受けられたのかということでしょう。11節でヨハネはイエス様についてこう言いました。「私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です。私はその方のはきものを脱がせてあげる値うちもありません。」一言で言ってヨハネとは比較にならない偉大な方です。その方がヨハネのところに洗礼を受けに来た。これでは立場が逆ではないかと思えます。ヨハネ自身もそのため、抵抗します。14節：「しかし、ヨハネはイエスにそうさせまいとして、言った。『私こそ、あなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたが、私のところにおいでになるのですか。』」ところがイエス様は答えて言われました。「今はそうさせてもらいたい。このようにして、すべての正しいことを実行するのは、わたしたちにふさわしいのです。」こうしてヨハネは承知し、イエス様はヨハネからバプテスマを受けられます。果たしてこの出来事にはどういう意味があるのでしょうか。

まず分かることは、イエス様はこの洗礼によって、ご自身を私たちと一つに結び付けてくださったということです。イエス様はヨハネから洗礼を受けるために彼のもとにやって来る人々の列に加わられました。「わたしは人々が受けている洗礼とは違う洗礼を受ける」と言って、別の扱いを要求されたわけではありません。イエス様は私たちと同じ人間として生まれてくださいましたが、洗礼においても私たちと一つになってくださったのです。

これだけで私たちにとっては大きな慰めですが、しかしやはり疑問は残ります。ヨハネが授けていたのは悔い改めのバプテスマです。罪が赦されるためのバプテスマです。しかしイエス様には罪がありません。ヨハネが拒んだのも、その理由によります。罪のない方が洗礼を受けることはナンセンスではないでしょうか。それはしてはならないことではないでしょうか。個人的に考えるならそうでしょう。しかしイエス様はここで神

を信じる民とご自分を結びつけておられます。すなわち彼らとご自分を一体の者として考えておられます。それゆえ個人としては罪がなくても、彼らと一体の者として、その罪をともに担う者とご自分を位置付けられた。洗礼は救いを象徴しますが、洗礼に力があるのは、水に人をきよめる力があるからではないのです。それは洗礼においてご自身を私たちと一つに結び付けられたイエス様によるのです。イエス様が私たちの罪を引き受け、逆にご自身の徳によって私たちを聖めてくださるのです。そのための生涯へと、イエス様はこの洗礼を受けることによって公に進んで行かれたのです。

この時に不思議な出来事が二つ起こりました。一つ目は 16 節にある通り、神の御霊がイエス様の上へ下ったことです。これはまずこの方が約束のメシヤであることをはっきり示すものでした。イザヤ 11 章 1～2 節：「エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。その上に、主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、はかりごとと能力の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。」 42 章 1 節：「見よ。わたしのささえるわたしのしもべ。わたしの心の喜ぶわたしが選んだ者。わたしは彼の上におわたしの霊を授け、彼は国々に公義をもたらす。」 61 章 1 節：「神である主の霊が、わたしの上にある。主はわたしに油を注ぎ、貧しい者に良い知らせを伝え、心の傷ついた者をいやすために、わたしを遣わされた。」

しかしこれは単にしるしであっただけではありません。旧約において聖霊の祝福を表す油注ぎを受けたのは預言者、大祭司、王でした。彼らが油注ぎ、すなわち聖霊の注ぎを受けたのは、あくまでもその職務を全うするためです。したがってこの時の聖霊の注ぎも、これからのメシヤとしての働きを強め、支えるために他なりません。

さらに突き詰めて言えば、聖霊の注ぎは単にその人一人を祝福するためのものではありません。油注ぎを受けた預言者、大祭司、王はいずれも神と民の間を取り持つ仲保者・仲介者でした。彼らが聖霊の注ぎを受けたのは、それによって仲保者としての働きを力強くなし、それによって民が祝福されるためです。キリストがこの時、聖霊の注ぎを受けたのも、ただご自身のためではなく、その働きを力強くなすことを通して、聖霊の祝福をそのからだである教会にもたらさすためです。

ですからイエス様の洗礼における聖霊の注ぎは、やがてのペンテコステの基礎となるものでした。イエス様は聖霊の注ぎを受けて、これから救い主としての働きをして行かれますが、それは後の日に私たちに聖霊の祝福を豊かにもたらしてくださるためだったのです。その祝福が実現したことを私たちはこのペンテコステの日、祝っています。イエス様はこの日、天から約束の聖霊を注いでくださいました。これはイエス様の洗礼の時になされた聖霊の注ぎと、これに続くイエス様の地上での働きがあつてのことなのです。このような先立つ準備と格闘を経た上での今日のペンテコステであることを私たちは感謝したいのです。

2つ目の不思議なしるしは、17節にある通り、天からの声です。これは旧約の2つの御言葉をドッキングさせたものです。一つは詩篇2篇7節：「わたしは主の定めについて語ろう。主はわたしに言われた。『あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。』」これはもともとは神によって立てられた王について歌った詩篇ですが、単なる人間の王ではなく、やがて神によって立てられるまことの王メシヤを指す御言葉でした。しかしもう一つの御言葉も組み合わされていました。それは17節最後の「わたしはこれを喜ぶ」という言葉です。これは招詞で読んで頂いたイザヤ書42章1節をもとにした言葉です。「見よ。わたしの支えるわたしのしもべ、わたしの心の喜ぶわたしが選んだ者。云々。」このイザヤ書42章をスタートとして描かれる「主のしもべ」は仕えるしもべであり、服従、謙遜、そして何と言っても「苦難」で特徴付けられるしもべです。これが先に見たキリストの王としての輝かしい言葉とドッキングさせられています。これは何を意味しているのでしょうか。それはイエス様は確かに神が約束したもう王なるメシヤですが、その方が神の国を打ち建てる方法は、力によってではなく、苦難を通してであるということです。いやその苦難が行き着く身代わりの十字架の死を通してである。ここにイエス様はどういう救い主であるかが示されています。この世の王は人々の上に君臨し、人々を従わせ、人々を仕えさせます。しかしイエス様は逆に仕える王なのです。まことの王が尊い命まで投げだして、その国民を祝福してくださる。神はこのようなイエス様のことを「わたしはこれを喜ぶ」と言われました。イエス様は父なる神にとって永遠の昔から愛しておられるかけがえのない一人子です。その方がこれから十字架にかかれるというのに、神はこれを喜ぶと言われた。考えられないことです。しかし神は私たち罪人を愛し、その救いを願ってください、イエス様がこのよう

に歩み出されることを「わたしは喜ぶ」と言われたのです。

私たちはここに何という三位一体の神のお姿を見るべきでしょうか。御子イエス様はイザヤ書が示す「苦難のしもべ」となって、私たちの罪を背負い、救い出すための歩みへ出発されました。聖霊なる神はその働きが確実に成されるためにキリストの上に下り、これからの歩みを支えて行かれます。父なる神は最愛の御子がこのような歩みへと公に入っていくのを見守り、人間の救いのゆえに「わたしはこれを喜ぶ」と言ってくださっている。私たちはこの三位一体の神のお姿を黙して見つめ、心からの感謝とまた自分自身とをささげる歩みへ進むべきではないでしょうか。

今日の記事を通して私たちが心に留めたいこと、その一つは私たちは今や一人ではないということです。私たちには、洗礼において私たちとご自身を一つに結び付けてくださった方がいます。私たちには様々な苦しみや悩み、戦いやうめきがありますが、私たちのところには救い主が来てくださいました！私たちの罪の重荷を担うため、同じ洗礼を受けられた方がいます！私たちはその方がおられることに慰めと希望を持ちたいのです。私たちは神に見放されていません。私たちは洗礼によって、神が遣わされたこの方と結ばれ、この方に担われ、この方によって救って頂く人生へ進むことができるのです。

そしてこのペンテコステの日に思うことは、イエス様は定められた地上での働きを成し遂げて、今や天から力強く、救いの権威を発揮しておられるということです。イエス様は十字架と復活を経て天に昇り、この日、天から聖霊を注いで、地上で成し遂げたみわざの実りをもたらしておられます。父なる神の右の座、すなわちこの世界と宇宙の王座に着座されたイエス様は、ご自身が成し遂げた贖いのみわざに基づいて、救い主としての力を何にも妨げられることなく発揮しています。なお主の再臨の日が来るまで、理不尽なことがこの世には起こります。しかしすべての事柄の上に絶対的な主権を持つ主は、そのただ中で、ご自身により頼む者を豊かに救い出すことができます。ヘブル書7章25節：「ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります・キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」

私たちはその主を見上げて、信仰を告白して歩みたいと思います。どんな悩みの中に

あろうとも私たちは一人ではありません。私たちのところに来て、ご自身を一つに結び付けてくださった方いる。そして救いのみわざをなして天に昇り、聖霊によって今日も豊かに働いてくださる救い主がおられる。この方と聖霊を通して豊かに結ばれ、完全に私たちを救うことのできるその御力によって、最後の救いに至るまで守られ導かれる主の民の幸いな歩みへ進みたいと思います。